

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	1	選択
担当教員			
萩原 憲二			
火3、火4			
添付ファイル			

科目の概要	<p>幼稚園教育要領の領域「環境」について、乳幼児期の環境とのかかわりの実際とそれに伴う発達の諸側面の特質をふまえ、保育における環境との豊かなかかわりを育むための保育内容と実際の指導法を理解する。保育内容の環境についての理解をもとに、子どもの環境との関わりについて実際の活動を体験した後、グループ毎によりよい環境のあり方を論じて探っていくという「アクティブ・ディープラーニング」の授業をオーディエンスレスポンスシステム (ARS)等のICT教育によって、授業設計の知識や能力を身につけたい。</p>
授業の内容	<p>1回 リエンテーション (授業の進め方、成績評価の説明等) 領域「環境」の授業内容、学習方法の概略を理解する。 シラバスを事前に読んでおく。 ARS(オーディエンスレスポンスシステム)によって「環境」についての認識を深める。</p> <p>2回 領域「環境」について 領域「環境」について内容を理解する。 テキストの領域「環境」のねらいと内容から幼児にとっての環境の意味や意義について自分の考えを持っておくこと。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>3回 自然環境への理解について 自然事象と人々の生活との関わりについて理解する。キャンパス周辺の田畑や動植物の様子を観察し、子どもにとっての自然環境の意味について理解する。 登学で出会う自然環境について事前に調べておくこと。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>4回 生物にかかわる活動 ① 動植物 保育での飼育・栽培について理解する。可能な限り植物の継続的な栽培を行い、知識と技能を修得する。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>5回 生物にかかわる活動 ② 動植物 飼育・栽培のねらいを理解し、望ましいかかわらせ方、ねらいを理解する。小動物の飼育・観察を行い、知識と技能を修得する。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>6回 物の動きにかかわる活動 ① ゴムの力 力学的おもちゃの仕組みを理解する。ポップアップカード等を制作し、知識と技能を修得する。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>7回 物の動きにかかわる活動 ② 磁石 物の性質への気づき、法則性や因果関係のとらえについて理解する。磁石利用の魚つりを製作し、知識と技能を修得する。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>8回 季節と活動 季節の移り変わりへの気づきへの援助の方法や、それと関わる年中行事について理解する。仮想の幼稚園を設定し、指導計画を作成し、知識を修得する。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>9回 自然素材を活かす活動 自然の樹木や葉の素材について、野外にて観察し理解する。キャンパス内の素材を利用した活動を行い、知識と技能を修得する。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>10回 文字、数量、図形への気づき 文字、数量、図形などの内容について、生活や遊びとのかかわりから、理解を深める。折り紙やブロック教材を行い、知識と技能を修得する。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>11回 標識の役割 保育室内で使用する標識づくりを行い、幼児の生活や遊び、発達を意識した環境構成への理解を深める。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>12回 幼稚園・保育所における環境構成について 安全かつ創造的な環境構成について理解する。植物栽培や動物飼育などについて、グループ毎で環境構成をし、知識を修得する。 グループワークによって認識を深める。</p> <p>13回 保育指導計画作成 ① 基礎 グループ毎で指導計画の編成と環境構成を作成し、知識を修得する。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>14回 保育指導計画作成 ② 実践 指導計画の作成と環境構成の試案作りをし、基本となる知識を修得する。 個別ワークとグループワークによって認識を深める。</p> <p>15回 まとめ</p>

	今学期の授業の評価を行う。また、今後の課題等を考察する。
学習到達目標	<p>幼稚園教育要領の領域「環境」の目標に即した学習計画を立て、効果的な授業を構成するための基礎的な知識と技能を身につける。</p> <p>○「関心・意欲・態度」 幼稚園教育要領の領域「環境」に関心を持ち、授業設計や、実際の活動に意欲的に取り組む。また、よりよい学習内容づくりに対する能動的な態度を身につける。</p> <p>○「思考・判断・表現」 幼稚園教育要領の領域「環境」の学習の基本的な知識に基づいてよりよい学習のあり方について、自分の考えを深め、具体的な授業設計として表現することができる。</p> <p>○「技能」 幼稚園教育要領の領域「環境」の活動に必要な技能を修得し、指導者として必要な技能を修得する。</p> <p>○「知識・理解」 幼稚園教育要領の領域「環境」の目標・内容を理解するとともに具体的な授業設計に必要な知識を修得する。</p>
授業の方法	<p>【授業形態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習 <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習では、保育活動を実践的に理解できるようなグループワークを行う。 <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ARS（オーディエンスレスポンスシステム）を毎回使用することによって、学生相互の考えの違いや認識の度合いを意識できるようにして授業を進める。
成績評価の方法	平常点30％，課題（実験観察のレポート）40％，小テスト（記述）30％
教科書・テキスト	幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 2018年3月
参考書	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 内閣府，文部科学省，文科省，厚生労働省，厚労省 チャイルド本社 2017年6月
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	実際の演習を行うときは、保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針で予習しておくこと。 https://sites.google.com/site/kodomosci/ で紹介している各種文献や資料を参照して、予習や復習をしておくこと。
履修上の留意事項	演習を行うときは、必ず、あらかじめ自分の考えを持っておく必要がある。紹介している各種文献や資料をもとに準備をしてほしい。
オフィスアワー	火曜日2限、水曜日4限 （4号館604）
担当教員への連絡方法	k-hagihara※osaka-aoyama.ac.jp（※を@に変える）、4号館604
その他	